

令和8年1月1日

第259号

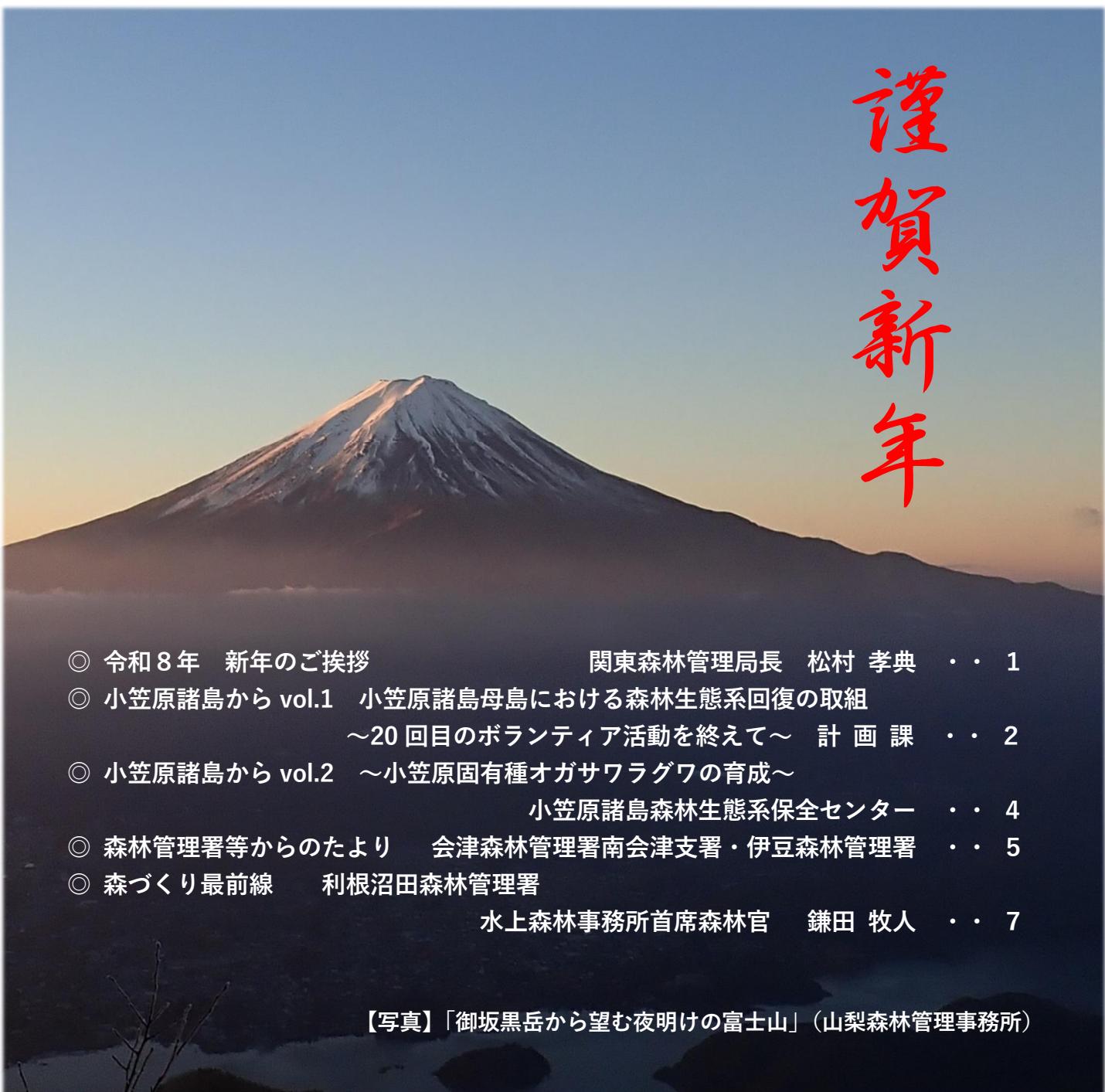
関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.ryna.maff.go.jp/kanto/>

謹
賀
新
年



◎ 令和8年 新年のご挨拶	関東森林管理局長 松村 孝典	...	1
◎ 小笠原諸島から vol.1 小笠原諸島母島における森林生態系回復の取組 ～20回目のボランティア活動を終えて～	計画課	...	2
◎ 小笠原諸島から vol.2 ～小笠原固有種オガサワラグワの育成～	小笠原諸島森林生態系保全センター	...	4
◎ 森林管理署等からのたより 会津森林管理署南会津支署・伊豆森林管理署		...	5
◎ 森づくり最前線 利根沼田森林管理署	水上森林事務所首席森林官 鎌田 牧人	...	7

【写真】「御坂黒岳から望む夜明けの富士山」(山梨森林管理事務所)



新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様方には、日頃より関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、御理解と御協力をいただきており、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、梅雨期に少雨状態が続き全国的に猛烈な暑さとなりましたが、局地的な豪雨等も多発しました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、被災地で復旧・復興に尽力されている関係者の皆様方の御努力に敬意を表します。

昨今の気候変動により自然災害は頻発化・激甚化する傾向にあり、森林の有する山地災害防止機能や土壤保全機能の重要性が一層増しております。大きな災害が発生した際には、速やかにヘリコプターによる被害状況調査、治山事業等による早期復旧などに取り組んでおり、引き続き、防災・減災、国土強靭化のための森林整備や治山対策を一層推進してまいります。

先人の努力により戦後造成してきた人工林の約6割が50年生を超え、利用可能な資源となっております。これを「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を確立し次世代に引き継いでいくことが重要です。近年、地球温暖化や生物多様性といった地球規模の環境問題が注目される中、これらの課題には森林が大きく関わっております。当局では、造林作業のコスト低減、効率的・効果的なシカ被害対策、地域の林業・木材産業の活性化に貢献するための木材の安定的・計画的な供給に取り組むとともに、地域特有の景観や豊かな生態系の保護・管理等を行うなど、地域の森林・林業施策の推進に貢献してまいります。

森林の循環利用に欠かせない国産材の需要拡大に向けては、住宅分野での木材利用に加え、非住宅・中高層建築物の木造化・木質化を進めることが重要です。昨年の大阪・関西万博では「大屋根リング」に福島県の木材が利用されたりするなど、木材利用の機運が高まりました。こうした追い風を受けて、林野庁では昨年10月から、自治体や企業による木材利用の促進とその効果の「見える化」を進める「『森の国・木の街』づくり宣言」に参画する方の募集を行っています。当局でも機会を捉えて取組のPRに努めてまいります。

国有林は、国民共通の財産であり、国土の保全や林産物の供給、地域住民への貢献等多くの役割を担っております。当局といたしましては、国有林の使命を踏まえながら、国民や森林・林業関係の皆様の御意見・御要望をよくお伺いし、その期待に応えられるよう適切に管理経営を進めてまいります。関東森林管理局の広報誌「関東の森林から」では、当局の取組をよりわかりやすく皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって健康で幸多い年となりますよう祈念申し上げまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



小笠原諸島から vol.1

小笠原諸島母島における森林生態系回復の取組

～20回目のボランティア活動を終えて～ 計画課



小富士から母島南部を望む



母島到着時の集合写真

令和7年11月29日（土）、30日（日）、日本で最も遠い有人島である東京都小笠原村母島で、「固有森林生態系回復ボランティア in 母島 2025」（通称母島ボランティア）を開催し、内地から7名、島民4名の計11名が参加しました。

このボランティアは、外来種アカギの本格的な駆除を契機に世界自然遺産登録前の平成14年から始まり、今回で通算20回目となります。新型コロナや台風による中止もありましたが、これまでに延べ約440名の方々が参加してくださいました。

内地からの参加者は、自費で6日間の日程を組み、片道27時間の船旅を経て母島に到着します。決して容易ではありませんが、リピーターが多いことが特徴です。今回も3名がリピーターで、そのうち最高齢の方は埼玉県在住の81歳。10回目の参加となり、慣れた手つきで作業をこなしてくださいました。

1日目は、母島南部にある南崎の国有林で固有樹種の植栽と外来樹種の伐採を行いました。作業場所は、都道最南端から遊歩道を40分歩いた「擂鉢（すりばち）」周辺で、ガイドツアーの休憩ポイントにもなっています。ここでは外来種モクマオウが繁茂しており、関東森林管理局も請負事業で駆除を進めている地域です。

当日は天候が不安定だったため、午前中にムニンイヌグスなど固有種・在来種の苗木37本を植栽しました。午後は東京都レンジャーの協力のもと、モクマオウの伐採を実施。直径20cm以上の木も含め、予定範囲をきれいに駆除し、伐採後の枝は景観に配慮して片付けました。



擂鉢（すりばち）



伐採作業の様子



植付作業の様子



小富士の展望箇所

昼休みには、現地スタッフの案内で小富士までハイキングを楽しみ、固有種である植物や陸産貝類の説明を受けながら、山頂から母島や周辺の島々の絶景を堪能しました。

夜は母島観光協会の協力で交流会を開催し、参加のきっかけや次年度への意気込みなどで盛り上りました。

2日目は、希望者3名とともに母島中央部の桑ノ木国有林で、過去に植えたオガサワラグワの成長確認とアカギの抜き取りを行いました。自分が植えた木の成長に感激し、作業前には固有種アカガシラカラスバト4羽の出迎えもあり、充実した一日となりました。

2日間の作業は、体調不良者もなく無事終了しました。「来年もぜひ参加したい」という声も多く寄せられています。今後も関東森林管理局は、小笠原固有の森林生態系を修復する事業への理解者を増やすため、母島ボランティアを継続して取り組んでまいります。



1日目の作業終了後



2日目の作業終了後



見送り船の様子



今月の表紙

御坂黒岳から望む夜明けの富士山 (山梨森林管理事務所)

御坂黒岳は、山梨県笛吹市御坂町に位置し、山梨百名山御坂山塊の最高峰です。どっしりとした佇まいでの山が黒く見えることから黒岳という名が付きました。黒岳という地名は全国に多数存在し、他の山と区別するために御坂黒岳とも呼ばれています。

山頂付近には貴重なブナの原生林があり、山頂南側の展望台からは、富士山と河口湖を一望できます。

小笠原諸島から vol.2

～小笠原固有種オガサワラグワの育成～

小笠原諸島森林生態系保全センター



オガサワラグワの伐根

オガサワラグワは、小笠原諸島の固有種であり、父島、母島、弟島のみに分布しています。また、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧ⅠA類に指定されており、絶滅の危険性が高い植物です。

オガサワラグワの材質は硬く、耐久性に優れ、緻密で木目も美しいため、家具材等として高価で取引されていました。そのため、明治時代以降、入植者により多数のオガサワラグワが伐採され、現存する成木は百数十本程度まで減少している状況です。オガサワラグワは腐りにくく、島のあちこちで伐根等が確認でき、過去に多数のオガサワラグワが存在していたことがわかります。

オガサワラグワが減少した要因としては、乱伐だけでなく、交雑による遺伝子汚染もあります。明治から昭和初期にかけ、養蚕目的で内地からシマグワが移入され、広く栽培されました。その後、太平洋戦争時の島民の強制疎開、終戦後の米軍による占領により、そのシマグワが野生化し、分布域を広げた結果、オガサワラグワとシマグワの交雫が進み、オガサワラグワの純血種が出来ない状況となっています。

このため、個体数を増やすべく、これまで森林総合研究所林木育種センターにおいて、父島や母島から持ち帰ったオガサワラグワの枝をもとに、組織培養によるクローン苗木を生産し、植栽を行ってきました。国有林内では父島の旭山や振分山に植栽試験地を設け、被圧木の除去、野ヤギ食害防止ネット設置、成長量の調査等の育成管理を実施しています。



オガサワラグワのクローン苗



林木育種センター職員による技術指導

このほか、センターでは、自生株が多く確認されている弟島北部において、シマグワとの自然交雫を防ぐため、花粉や種子の供給源である孫島でのシマグワの駆除や、自生株への野ネズミの食害を防ぐため、B S（ベイトステーション）を設置し、定期的に殺鼠剤を補充することで保全を図っています。

また、人工交配を進めるべく種子を採取する目的で、非営利活動法人小笠原野生生物研究会の協力のもと、森林総合研究所清瀬試験地において、父島産オガサワラグワの接ぎ木に取り組んでいます。

本年度は、林木育種センター職員の指導を受け、10月にセンター及び国有林課職員、野生生物研究会のメンバーで接ぎ木を行いました。オガサワラグワとシマグワの交雑種を台木とし、父島産のオガサワラグワを穂木として使用しました。

現在、経過観察中ですが、すでに葉が確認できている個体もあり、これまでよりも成果が確実に出ています。今後もセンターでは、オガサワラグワの育成に向け、関係者と連携しつつ、様々な形で固有生態系の修復に取り組んでいきます。



オガサワラグワの接ぎ木状況

『森林管理署等からのたより』 ～森林管理署等からの取組等を紹介します～

●広葉樹材の採材現地検討会を開催 ～会津森林管理署南会津支署～

令和7年10月9日、南会津町大桃地区において、木材流通の専門家であるノースジャパン素材流通協同組合の鈴木理事長を講師に招き、広葉樹材の採材現地検討会を開催しました。

本検討会は、これまで安易にパルプ材などに採材されている広葉樹材について、潜在的な価値を見出すことを目的とし、自治体、林業関係団体や林業事業体、近隣の森林管理署職員など、多くの方にご参加いただき開催しました。

検討会では、広葉樹6本を検討木として準備し、参加者を6グループに分け採材方法を検討していただきました。参加者の多くは、慣れない広葉樹材の採材に苦戦しているようでした。各グループの検討結果発表後に、鈴木理事長よりユーザーのニーズを常に把握し、山元で作業する者まで情報を共有することが、高値に結び付くポイント等のアドバイスがあり、樹種毎の利用用途を交えながら、参加者と意見交換を行い、参加者からは採材視点の再認識が出来た等の意見がありました。



採材検討状況



鈴木理事長による検討実演

今回の採材検討会が、広葉樹材の更なる利用価値の創出に貢献できればと考えています。

(会津森林管理署南会津支署
酒井 裕基)

●「伊豆地域から安全の輪を広げよう」～伊豆森林管理署～
(三島労働基準監督署合同安全指導会議等の開催)

国有林野事業において、令和7年8月末までに林野庁全体で4件の重大災害、休業4日以上の労働災害においても、46件（対前年度比139%）の発生しており、うち伐倒作業中は15件の発生となっています。また、民有林を含めた林業労働死亡災害（令和6年1月から12月の労働災害による死亡者数は31人）も多く発生しています。

このような状況を踏まえ、林業に関わる組織、地域社会全体で安全意識を高め、安全で快適な職場環境を確保し労働災害のない職場づくりを目指すため、三島労働基準監督署、静岡県、伊豆市と連携して、伊豆地域の林業事業体等（参加者：35人）に参加していただき、令和7年12月11日に安全指導会議の開催及び合同安全パトロールを実施しました。



安全指導会議の様子

【実施内容】

- 労働災害情報の共有、労働安全衛生法令や作業ガイドラインの周知徹底
- 現場安全パトロール（危険要因・危険な作業等の早期発見と改善指導等）
- 安全ルールの遵守（特に伐木作業（かかり木処理・つるがらみ・枯損木や欠損木）における具体的なルールの確認、高性能林業機械の安全利用に関する対策やリスクアセスメントの重要性等）



作業道作設に係る安全指導



高性能林業機械に係る安全指導

安全対策は、林業関係者にとって共通の課題であるため、伊豆森林管理署は、関係する市町や静岡県と協力しながら、より一層、現場での作業だけでなく、会社や地域社会全体へと安全の輪を広げ、安全を最優先した林業の成長産業化に貢献できるよう、これからも支援していきたいと思います。

（伊豆森林管理署次長 太田 誠）

GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶ <https://expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2025年12月現在）

画像提供：GREEN×EXPO協会



©Expo 2027

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 水上森林事務所 首席森林官 鎌田 牧人



一ノ倉沢の雪と紅葉

私が勤務する水上森林事務所は群馬県の最北端みなかみ町に位置し、水上・藤原担当区の約4万3千haの国有林を管理しています。この広大な森に降り注いだ雨や雪は、やがて五つのダムを経由し、利根川となり関東平野を潤します。みなかみ町は温泉郷として全国的に有名であるとともに、谷川連峰におけるスキーや登山、豊かな自然環境を活かしたアウトドアなど観光資源が豊富です。近年は外国人観光客に加え就労者も多く見かけます。

管轄する国有林の多くは上信越高原国立公園に指定され、管轄する全ての国有林は「みなかみユネスコエコパーク」に指定されているなど、中央分水嶺を形作る水源の森として貴重で独特の生態系が評価されています。

この自然豊かな町が現在直面している問題がナラ枯れです。平成22年に湯檜曽で県内初の被害が確認されて以来、薬剤燻蒸処理、薬剤樹幹注入処理、おとり丸太などの対策を奮闘努力してまいりましたが、ナラ枯れ被害は拡大し続け利根川源流部までさかのぼり奈良俣ダム周辺にまで広がりつつあります。昨年度はみなかみ町議会からの質問を受けるなど、このナラ枯れ問題は地域の大きな関心となっています。国有林としても専門家の指導を受けつつ引き続き対策に取り組んでいきます。

また、今年は全国的にクマ被害が話題となっていますが、管内でも人的被害が複数発生しています。

当事務所の主な業務は、伐採箇所の造林やニホンジカやクマによる被害対策、林道除草、森林計画樹立にかかる林況調査、境界管理、土地の貸し付けや治山事業に係わる調査や検査等を行っています。



湯檜曽公園付近のナラ枯れ



おとり丸太周辺を刈払う著者



利根川源流部森林生態系
保護地域（八木沢ダム奥）



谷川岳山頂付近からの稜線

引き続き地域と関係機関の窓口となり、この広大な森を次世代に引き継ぐため努力して参りたいと考えています。